

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874003805		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	姫路ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県姫路市神田町4丁目15番地		
自己評価作成日	令和2年7月15日	評価結果市町村受理日	令和2年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和2年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・DSとの共同行事を、家族を交えて行っている。 ・医療面において不安なことがあれば、その都度関係先に連絡をし、入居者様に不安のない生活を提供できるように取り組んでいる。 ・地域との交流をテーマに、地域行事に積極的に参加している。 ・スタッフのギター演奏に合わせて懐かしいメロディを楽しんだり、手芸や工作を行っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>木調の温かみと明るさ・広さ・清潔感が感じられる環境である。利用者として制作した季節感のある作品等を飾り、手作りの調理を継続し職員も一緒に食事をする等、季節感や家庭的な雰囲気大切にしている。地域の盆踊り・小学校の音楽会等地域行事に参加し、保育園児・高校生や踊り・楽器演奏等のボランティアの来訪があり、地域交流に取り組んでいる。職員のギター演奏による音楽レクリエーションや毎月企画する外出レクリエーション、デイサービスとの合同行事等、利用者が楽しめる機会作りに努めている。面会・電話・毎月の手紙等で細やかな報告に努め、家族会や運営推進会議に家族の参加が多く、家族と密に連携できるよう取り組んでいる。モニタリングと実施記録の充実により、利用者一人ひとりの現状に即した介護計画をもとに個別支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	* 本評価は、緊急事態宣言により、令和2年3月実施予定を延期し、令和1年度分訪問調査として実施したものです。	

姫路ケアセンターそよ風

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に姫路ケアセンターそよ風の目標と独自の理念を掲げている。	事業所独自の「理念」「基本方針」を作成し、事務所内に掲示し職員の共有と理解を図っている。日々の利用者とのコミュニケーションを通じて和やかな空間づくりに努め、また、介護計画の共有と検証を通じて現状に即した個別のケアを行う等、理念の実践に向け取り組んでいる。一部職員の目標管理制度にも、理念に関する項目を採り入れている。	「理念」に、地域密着型サービスの意義・役割等を採り入れることが望まれます。また、職員が参画して理念の実践に向け具体的に取り組む仕組みづくりを検討してはどうか。(理念の実践に向けたフロア目標を設定する、理念の実践状況を振り返る機会を定期的に設ける等)
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊り等の地域行事への参加や施設行事への招待など、交流を行っている。機会があれば買い物・散歩などに出かけている。ホーム便りを可能な限り発行し、自治会長様などへ配布している。	自治会に加入し、「そよ風新聞」を自治会長等に配布する等、連携に努めている。地域の盆踊りに出かけ、小学校の音楽会の招待を受け、保育園児・高校生や踊り・楽器演奏等のボランティアの来訪がある等、地域交流に取り組んでいる。また、散歩・買い物・外食等で、地域に出かける機会作りにも努めている。介護支援ボランティア養成や安心サポーターの受け入れ等で地域で必要とされる役割を担い、トライやるウイークを受け入れ学校教育への協力も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護支援ボランティア養成・安心サポーターの受け入れ・トライやるウイークの受け入れを行っている。		

姫路ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の割合で会議を開催しており、その際には包括支援センター・家族様にも出席して頂き、サービス向上に繋がる様話し合い・研修を行っている。</p>	<p>利用者・家族・地域包括支援センター職員・地域代表・事業所からの参加者を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。会議では、利用者や職員の状況、行事等の事業所の取り組みを報告し、質疑応答や意見・情報交換を行っている。毎回、複数の家族の参加あり、家族と相互理解を図る機会となっている。地域に関する情報や家族からの提案等を、運営やサービスに活かせるように取り組んでいる。議事録は職員に回覧して周知し、玄関に設置して公開している。</p>	<p>構成メンバーとして、知見者を選任することが期待されます。また、地域代表の参加が困難な現状であるため、引き続き参加を呼び掛けることが望まれます。</p>
5	(4)		<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>研修やグループホーム連絡会へ参加したり、必要に応じて市役所、消防署、保健所等に問い合わせなどを行っている。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の状況や取組みを伝えている。市職員・地域包括支援センター職員も参加する「グループホーム連絡会」に参加し、意見・情報交換を行い連携を図っている。集団指導や研修に参加し、運営やサービス向上に活かしている。相談や不明な点等があれば、随時、担当機関に問い合わせ回答や助言を受けている。</p>	
6	(5)		<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修や勉強会を通じて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。不穏や不安が見られる際には付き添い、身体拘束の無い介護を行っている。立地条件による安全確保の為、家族からの了承を得て玄関の施錠は行っている。</p>	<p>「身体拘束適正化指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。重要事項説明書にも方針を明記し、契約時に家族に説明している。月に1回、「身体拘束適正化・虐待防止委員会」を開催し、適正化に向け検討している。委員会の内容は、議事録の回覧により職員に周知している。「身体拘束・虐待防止」研修を実施し、受講者はアンケート方式の研修報告書を提出している。参加できなかった職員にも資料を配布し、同様に報告書の提出により周知を図っている。グループホームの玄関の開錠には操作が必要であるが、利用者に外出の意向があれば、閉塞感を感じないように職員が対応している。</p>	

姫路ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、精神的虐待(声かけ等)にも細心の注意を払い、取り組んでいる。	上記「身体拘束適正化」と同様に、「高齢者虐待防止」についても、研修・委員会を通して意識向上を図っている。気になる言葉かけ等については、都度や、全体会議等で注意喚起し不適切ケアの防止に取り組んでいる。管理者層は相談しやすい関係づくりに努め、定期的にも随時にも面談の機会を設け、また、法人のストレスチェックや職員アンケートも活用し、職員のストレス等が利用者へのケアに影響を与えないよう努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員ができる限り研修へ参加する機会を持ち、それを共有できるように取組中である。また、必要とされる利用者がないか話し合いの場を持っている。	権利擁護に関する制度について、外部研修や実務を通して学ぶ機会もあるが、機会や理解については個人差がある状況である。成年後見制度を利用している利用者があり、後見人への状況報告や金銭管理書類の提供等、制度活用の協力支援を行っている。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が相談に応じる体制がある。	権利擁護に関する制度について、職員全員が一定レベルの知識を得ることができるよう、研修機会等を設けることが望まれます。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明と理解を得ており、入居後にも必要に応じてその機会を設けている。どんな質問にも細かい対応を心がけている。また、面会時等での家族のご意見も受け入れている。	見学時に、パンフレットをもとに、事業所の特徴やサービス内容について説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書に沿って、質問に答えながら、具体的でわかりやすい説明に努めている。重度化対応や退居要件等については質問も多く、特に詳しく説明し不安の解消に努めている。契約内容を改定する際は、改定内容を文書で説明し、基本的には文書で同意を得ている。契約の終了についても契約時に説明し、個別の状況に配慮して対応している。	

姫路ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からは日常的に意見や要望を受けようとしており、また定期的に家族会を開催している。ご意見箱の設置。家族会での意見も積極的に受け入れている。	面会時や電話連絡の際に近況を伝え、毎月手紙や写真を送付し、適宜「そよ風新聞」を発行し、家族の意見・要望の把握に努めている。夏祭りの際に合同の家族会を開催し、途中で職員が離席して家族で話し合う時間を設け、率直な意見が把握できるように工夫している。把握した意見・要望は、運営やサービスに反映できるよう取り組んでいる。利用者や複数の家族が運営推進会議に参加し、また、安心サポーターの受け入れも行い、利用者・家族が外部者へ意見等を表せる機会も設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時意見や提案を話し合い、定期的に全体会議やユニット会議を開催し、発言出来る機会も持っている。業務中にも意見交換行っている。	日常的には、職員が意見・提案を「連絡ノート」に記録して職員間で共有し、内容に応じて管理者が対応している。定期的にユニット会議・全体会議を実施し、職員の意見・提案を利用者のケア・業務・運営等に反映している。定期的には人事考課時・契約更改時等に、また、適宜にも個人面談を行い、個別に職員の意見等を聴く機会を設けている。職員アンケート・法人相談窓口等を活用し、職員が法人に意見を直接伝える仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特徴や特技を把握し、それぞれの得意分野を活かせる様、配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に外部研修の機会を設けており、それ以外にも全体会議を利用し、内部研修を行っている。		

姫路ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者や他センターの職員との交流会や勉強会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前はもちろん、入所以降も不安や要望を傾聴し、安心して生活出来る環境やサービス提供出来るよう、努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際にはキーパーソンとなる家族を中心に話す機会を持ち、不安や要望を傾聴し信頼関係が築けるよう、努力している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にケアマネを交え、本人や家族と話し合い、要望や必要なサービスが提供出来るよう、努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で同じ時間を助け合って過ごしているという気持ちを持ち、声掛けや行動で一方的な介護にならないよう、努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊による家族交流を推進し、実施している。また、受診が必要な場合は付添いを家族様へ対応して頂いている。本人の小さな変化にも、家族様に報告し、共に本人の望む暮らしを模索している。		

姫路ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まず家族の承諾を得るなどプライバシーに配慮しながら、知人や友人の面会を受け入れているまた、デイサービスに来られる知人も関係継続として交流を図っている。	入居時の面談で把握した社会との関わり・趣味等は「アセスメント表」に記録し、入居後のコミュニケーションから把握した内容は「ケアカルテ」に入力し、馴染みの人や場について情報の把握に努めている。家族・友人・知人等の来訪時には、ゆっくり過ごせるように配慮している。買い物・外食・理美容等に同行し、また、通院や自宅への外出・外泊時には家族と外出しやすいように支援し、馴染みの関係継続を支援している。デイサービス利用時の職員や利用者と、合同イベントで交流する機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置なども考慮しトラブル回避に努めたり、利用者同士の関わりだけでは不十分な場合、職員が間に入り支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族からの要望があれば応じていけるよう努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話や傾聴、観察等から本人の思いや意向の把握に努めている。家族様にも協力を得ている。職員間の日常会話により、ご入居者様の情報を共有している。	利用者の思いや意向について、入居時に把握した内容は「アセスメント表」の要望欄に記録している。入居後の日々のコミュニケーションで把握した内容は、「連絡ノート」に記録し共有している。意思の疎通が難しい場合は、コミュニケーションの中で観察に努め、表情や反応等から汲み取るように努めている。家族からの意見や情報も参考にしながら、思いや意向を支援方法や介護計画に反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話や聞き取りから把握するよう努め、職員間での情報の共有を行っている。		

姫路ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活サイクルなど以外にも、レクリエーションや家事などを通じて、現状を把握するよう努めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、会議で職員から提案された事柄を反映し、現状に即した介護計画を作成している。計画作成者と職員との情報交換を積極的に行っている。	「入居時基本情報」「アセスメント表」をもとに初回の「介護計画」を作成し、その後は基本的に6ヶ月ごとに計画を見直している。計画内容の実施状況は「モニタリング一覧表」に、日々の生活の様子等は「ケアカルテ(介護記録)」に記録している。ユニット会議での説明、介護計画のファイルの設置、「モニタリング一覧表」への入力により、計画内容の周知を図っている。計画を見直す際は、再アセスメントとモニタリングを行い、担当者会議で検討している。計画作成後概ね1ヶ月で、再度モニタリングを行い、更新した計画内容の評価を行っている。	介護計画の見直しにあたって把握した、利用者・家族の意向や主治医など関係者の意見等を、「アセスメント表」や「担当者会議録」など、記録に残すことが望まれます。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	報告や連絡に関するノートを職員で共有しており、合わせて口頭での申し送りも行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の機能を活用し、出来る限りニーズに応じた支援を行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	トライやるウィークの受け入れや、小学校音楽会への招待や保育園などとの地域交流を行っている。		

姫路ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>2週間に1回の訪問診療を行っている。また利用者の体調不良時は主治医に連絡し受診、体調管理に努めている。受診は家族が付き添うことを基本としている。精密検査や入院が必要な場合には、かかりつけ医からの紹介状により、スムーズな対応が図れている。</p>	<p>契約時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。2週間に1回協力医療機関の訪問診療を受けられる体制があり、体調管理・体調不良時の対応を行っている。事前連絡事項や受診結果等は、「往診内容報告書」に記録している。通院による受診は基本的には家族が行うこととし、事前の情報提供を行っている。希望者は、歯科の訪問診療を受けられる体制がある。訪問診療・通院について必要事項は「ケアカルテ(介護記録)」にも記録し、「連絡ノート」で情報共有している。</p>	
31			<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の身体症状の変化や急変に対応し、医療連携を実施している。</p>	/	
32		(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に病院関係者に情報提供を行っている。入院中は基本的にはご家族様におまかせし、お見舞い時等に様子を伺い、入院中の経過についての情報を得るようにしており、スムーズな退院を支援している。2か月を目途に管理者が病院関係者や家族へ調整を行っている。</p>	<p>入院時は、「介護サマリー」「アセスメント表」等で医療機関に情報を提供している。入院中は、家族と連絡をとりながら、週1回程度面会に行き、病院関係者と情報交換し早期退院に向けて支援している。退院前カンファレンスに参加し、退院時には「看護サマリー」の提供を受け、「介護計画」の見直しを検討している。入院中に把握した情報は「連絡ノート」で、「看護サマリー」は回覧で情報共有している。</p>	
33		(16)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前よりご家族への説明を行い、必要に応じて話し合いの場を設けている。医療行為が特に必要ない場合や家族の意向により経口摂取可能な限り支援している。</p>	<p>事業所としては、家族の希望があり、高度な医療的処置を要しない場合は、経口摂取可能な段階まで支援する方針がある。契約時に、事業所が出来ること出来ないことを説明し、意向確認を行っている。重度化を迎えた段階で、かかりつけ医等関係者とともにカンファレンスを開催し、支援方針を話し合っている。話し合った内容は、「担当者会議議事録」に記録し、介護計画の見直しにつなげている。</p>	

姫路ケアセンターそよ風

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応したマニュアルを作成したり、訓練を行っている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルを策定し、定期的な避難訓練を行っている。地域や家族にも協力を依頼したり、非常食や水の備蓄している。スプリンクラーや火災報知機も設置済み。	事務所の火災通報装置横に災害時対応手順を掲示し、また、各居室に避難経路を掲示し、職員の周知を図っている。令和1年度は、昼・夜想定消防総合訓練を2回、利用者も参加して実施し、その中に地震と水害も想定している。「訓練概要」を作成して、訓練を実施している。備蓄庫に水・レトルト食品・米・カセットコンロ等、必要な物品を備蓄している。今後は、近隣の企業と協力関係を築けるよう検討している。	訓練後に「実施報告書」等を作成し、実施状況や課題等を記録し、今後の訓練に活かすと共に、訓練に参加できなかった職員に訓練内容の周知を図ってはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や勉強会を通じて職員の意識の向上を図るよう努めている。自尊心を配慮した言葉かけを意識し、人権尊重を心掛け対応している。	年間研修計画に沿って「接遇」「個人情報保護」研修を実施し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応、また、プライバシーや個人情報の保護について理解を深めている。気になる言葉かけなどがあれば、管理者からや、全体会議等で注意喚起している。個人記録類は事務所の鍵のかかるロッカーに保管している。写真の使用については、契約時に文書で同意を得ている。職員の守秘義務についても、入職時に誓約書を交わしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己表現しやすいよう、場面に応じた声掛けを行っている。		

姫路ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ対応できる体制を整えるよう、努めている。場合によっては居室内での食事などにも対応している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族とも相談し訪問美容を利用したり、家族付添いにてパーマや毛染めにも行っておられる。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の声掛けにより盛付けや食器拭き等、一緒に行っている。下膳は利用者に協力してもらっている。飲み物は個別対応している。外出とともに、外食を実施している。	法人の献立表をもとに献立を立て、食材を発注して、各ユニットで手作りの食事を提供している。献立に、季節感や行事食を採り入れ、また、定期的実施する食事アンケートの結果を反映し、利用者が食事を楽しむことのできるよう取り組んでいる。各ユニットの利用者の好みや状況に応じて調理法をアレンジしたり、個別の食事形態にも対応している。可能な利用者が、盛り付け・下膳等に参加できるよう支援している。職員も利用者と同じ食事を共にし、家庭的な雰囲気づくりに努めている。月に1回程度、外出レクリエーションを企画し、外食や喫茶を楽しむ機会を設けている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表を活用している。食べやすい形状にしたり、嗜好に合わせて提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて、毎食後に行っている。義歯は毎日の夕食後に預り、専用洗浄剤を使用しての洗浄を行っている。利用者によっては訪問歯科を利用している。		

姫路ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用により排泄パターンをつかみ、状況に応じた声掛け誘導を行っている。ご入居者様の身体状況やプライドに配慮した、支援を心掛けている。	排泄チェック表で利用者の排泄状況や排泄パターンを把握し、基本的に昼間はトイレでの排泄・排泄の自立に向けた支援を行い、夜間は個々の状況に応じた支援を行っている。排泄状況をタブレットにも入力し、フロア会議で情報共有し、現状に即した介助方法や適切な排泄用品の使用を検討している。各ユニットに3カ所のトイレがあり、利用者の身体状況に応じたトイレを使用し、身体機能の維持や自立支援につなげている。声かけやドアの開閉にも留意し、プライバシーや羞恥心への配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や適度な運動を心がけ便秘予防に努めているが、下剤の使用等も主治医の指示にて取り入れている。飲み物にも工夫し提供している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週に2回の入浴を心掛け、時間帯を決めず、体調や習慣を考慮して個別対応している。また、デイサービスに特浴があり、身体状況に応じた対応も可能である。	週2回以上の入浴を基本とし、生活習慣やその日の体調や気分に応じて個別対応に努めている。入浴を好まない利用者には声かけやタイミングを工夫し、入浴表やタブレット記録で入浴状況を把握しながら、清拭やシャワー浴も活用して清潔保持を行っている。個浴で1人ずつ湯を変え、自身のペースでゆっくり入浴できるよう支援し、コミュニケーションや歌を楽しむ利用者も多い。デイサービスに特浴の設備があり、身体状況に応じて使用が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を強制せず、居室やリビングなど思い思いの場所で過ごせるよう努めている。室温調節などにも気を付け、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については処方箋を確認し、わからなければ主治医や薬剤師に相談している。		

姫路ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除や洗濯畳み、料理の盛付け等各々の力を活かした、役割の働きかけを行っている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮しながら、季節を感じて頂けるようなプランでの外出や外食を行っている。個別の希望に応じた買い物等の外出を支援している。	天候や利用者の体調に応じて、近隣の散歩・買い物等、利用者の希望に沿って外出できるよう個別支援を行っている。地域の盆踊りや小学校の音楽会等、地域の行事に参加できるようにも支援している。月に1回は外出レクリエーションを企画し、初詣・花見・コスモス見物・紅葉狩り等季節を感じる外出や外食の機会も設けている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力の有無に係わらず、希望に応じて所持されているが、紛失時の責任所在については家族に了承を得ている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族で電話したり、取り次いだりしている。無理強いしないように年賀状や暑中見舞いを書いて頂いている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開け閉めは利用者によって率先して行われている。季節ごとに花を植えて楽しんで頂いている。演歌や映画など各々が居心地がよく過ごせるよう工夫している。利用者の作品を展示することで、なごみを感じる空間を工夫している。	フロアに事務所を挟んで2つのユニットが位置し、広さと開放感が感じられ、明るく、木調の温かみと清潔感がある。利用者と制作した季節の作品や季節の花の装飾などを飾り、各ユニットで季節感のある環境づくりを工夫している。キッチンから調理の音や匂いが感じられ、利用者も洗濯ものたたみ等に参加し、生活感を大切にしている。テーブル席の他に、窓際にソファセットを設置し、思い思いの場所でくつろげるように配慮している。職員のギター演奏や映画を鑑賞したり、制作や家事作業に参加する等、共有空間で楽しい時間が過ごせるように工夫している。	

姫路ケアセンターそよ風

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には個別の定まった席とは別に、窓際にソファを配置し、くつろげる空間もある。その時々に応じ、テーブルや椅子の配置を変えたり、自由に使ってもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具等を持ち込みして頂き、安心感を得て、その人らしい居室になるようにして頂いている。	各居室に、ベッド・カウンター・クローゼット等を設置している。テレビ、使い慣れた家具や寝具、ランプ・時計・小物入れ等の馴染みのあるものが持ち込まれており、カレンダーや塗り絵など自身の作品も飾られている。入り口には名前とともに、花やキャラクターの写真等を飾り、部屋間違いがないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床もクッション材使用され、手すり設置等安全に生活したり、トイレも分かりやすく表示し、安全で安心して生活出来るよう、工夫されている。		